

# 付着生物ラーバ情報

## サンカクフジツボの付着は終了しました

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは11月1日に奥内沖で0.8個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図2)。

#### (2) サンカクフジツボ (通称: アカガキ)

ラーバは10月25日に奥内沖で10.8個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>見られましたが、11月4日には久栗坂沖のみで1.1個体/m<sup>3</sup>しか見られていません (表1、図3)。

#### (3) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シュリ)

ラーバは10月25日に奥内沖で1.7個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で3.3個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で3.9個体/m<sup>3</sup>、11月1日に奥内沖で2.5個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で3.9個体/m<sup>3</sup>、川内沖で0.8個体/m<sup>3</sup>、11月4日に久栗坂沖で18.9個体/m<sup>3</sup>見られました (表1)。

#### (4) マボヤ

ラーバは10月25日に久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>見られました (表1)。

#### (5) その他

アミクサの小枝は10月25日に野辺地沖で0.8個/m<sup>3</sup>、11月1日に奥内沖で5.0個/m<sup>3</sup>、野辺地沖で1.6個/m<sup>3</sup>見られましたが、キヌマトイガイのラーバ、オベリア類のクラゲは見られていません (表1)。

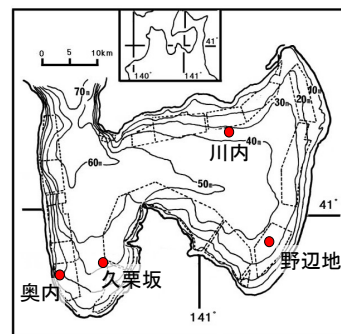


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	オベリア類クラゲ	アミクサ小枝
				ラーバ	卵					
奥内沖	R3.10.25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	10.8	0.0	0.0
	R3.11.1	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	5.0
久栗坂沖	R3.10.25	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	3.3	0.6	0.0	0.0
	R3.11.4	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	18.9	1.1	0.0	0.0
野辺地沖	R3.10.25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.8
	R3.11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	1.6
川内沖	R3.11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

### 2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20℃以下に低下すると産卵します。現在、陸奥湾内の中層水温は17℃前後です。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバが出現する可能性があるので、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

サンカクフジツボのラーバは、ほとんど出現していないので付着は終了です。

ムラサキイガイのラーバは4~7月まで出現していたので、稚貝および耳吊り貝に小さい個体が多く見られる可能性があります。秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

マボヤのラーバが見られたので、今後ラーバが増加するものと考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

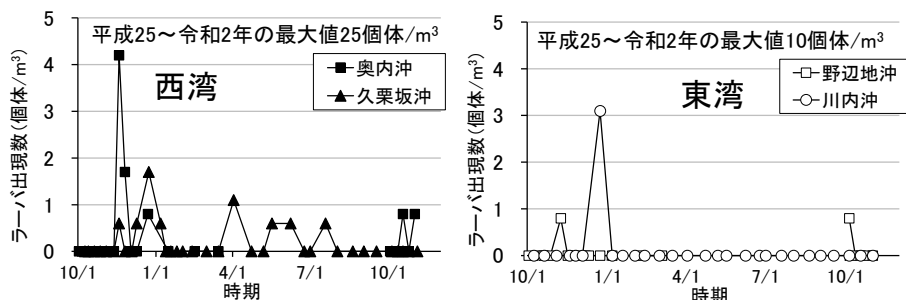


図2 ヲレイボヤの出現数の推移 (令和2年10月~令和3年11月)

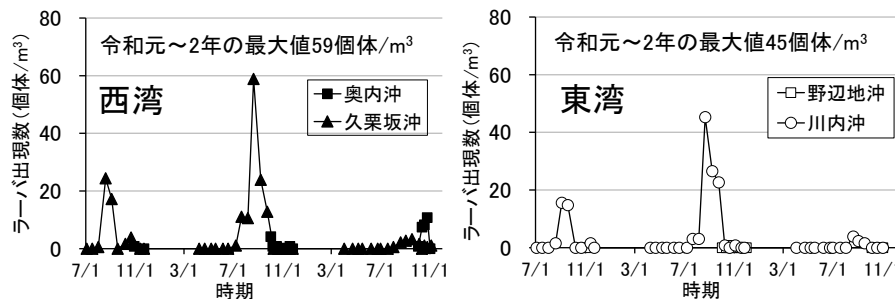


図3 サンカクフジツボの出現数の推移 (令和元年7月~令和3年11月)

